2012.06.01
vol.20

赤谷の森だより

Akaya no moridayori

AKAYA PROJECT
赤谷プロジェクト地域協議会
㈶日本自然保護協会
赤谷森林環境保全ふれあいセンター

●赤谷の森写真館　ハイキングコースで可憐な草花と出会う！……2 3

●赤谷の森でわかったこと
「赤谷の森のコウモリ」……4-5

●サポーター活動の紹介
「南ヶ谷湿地」……6

●国連子供環境ポスター
原画コンテスト御一行の来訪……6

●新メンバーの紹介……7

●赤谷プロジェクトの活動……7
赤谷プロジェクト活動日誌／イベント情報

●赤谷プロジェクトに望むこと……8
赤谷プロジェクト地域協議会　河合　進さん

●赤谷プロジェクト、って？……8

ブナの実生（みしょう）

2012年5月13日撮影／竹村 秀雄

（実生：種子から発芽した植物）

赤谷の森 写真館

『ハイキングコースで可憐な草花と出会う！』

三国旧街道

永井宿～三国峠

多種の植物と出会え、自然の豊かさを感じます

（文・写真　赤谷プロジェクト地域協議会・越尾　武）

三国街道は雪解けと共に早春の草花が咲き始め、多くの種類の野草が季節の移り変わりと共に美しさを競うかのように、訪れる人の目を楽しませてくれます。

永井宿の集落に梅や桜の花の咲く季節になると、畑やその周辺では雪解けを待って咲く、イヌノフグリ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、ナズナ、スミレ、フデリンドウ、ニリンソウ、ヒトリシズカ、アズマイチゲ、キクザキイチゲなど里山の草花が見られます。

永井宿から三国峠を目指して坂道を一時間ほど歩くと歩道はなだらかとなり、このあたりを地元では「風反り（かざそ）」と呼んでいます。ここから徐々に植物も変化が見られ、ショウジョウバカマ、サンカヨウ、シラネアオイ、樹木では、ツツジ類や、マンサクなどの花を見ることができます。

三国峠に向かう歩道の中間に位置する「大般若塚」から猿ヶ京温泉に通じる歩道沿いには、カタクリの群生地を見ることができます。ここでは、キクザキイチゲ、アズマイチゲ、ヤマブキソウ、ヒトリシズカ、ニリンソウ、ウスバサイシンなども見られます。

三国峠から三国山頂にかけて植物は様変わりし、高山性となります。このあたりの花の季節は五月中旬頃から始まり、ツツジ科のベニサラサドウダン、ムラサキヤシオツツジ、ヤマツツジ、レンゲツツジ、などの多種のツツジが見られます。中腹の緩やかな斜面には、チシオシモツケ、ニッコウキスゲ、タムラソウのお花畑を見ることができます。

ここ三国旧街道沿いでは、春先から秋にかけて多くの種類の草花を見ることができ、その時々に変化する美しさを楽しめます。

皆さんも訪れてみてはいかがでしょうか。

ヒトリシズカ

雑木林や草地によく見られる多年草で、ヒトリシズカと呼ばれているのに必ず数本から数十本単位で咲いています。

シロバナエンレイソウ

別名ミヤマエンレイソウとも呼ばれ、街道沿いの湿り気のある雑木林や杉林などでよく見られます。

オオイヌノフグリ（青い小さな花）とヒメオドリコソウ

日当たりのよい畑で咲く雑草。平地でよく見られ、春先に早く咲く草花の一つです。

ノジスミレ

日当たりのよい道ばたなどによく見かけるスミレです。スミレは種類がとても多く見分けることが難しく、地方によっては特有の種もあるそうです。この地方にも特有の種類のスミレがあるかもしれません。皆さんも野山で探してみませんか。

フデリンドウ

花が筆の穂先に似ていることからこの名が付けられたといわれています。日当たりのよい山地や草地に見られます。草丈が5～10cmほどの小さな草花です。

キクザキイチリンソウ

雑木林などでよく見られる花で、カタクリやニリンソウといっしょに咲いていることもあります。よく似た白い花はアズマイチゲと呼ばれます。

カタクリとアズマイチゲ

カタクリはアズマイチゲやニリンソウと同じ場所に咲いていることが多く、最近は群生している場所も少なくなっているように思います。カタクリの実は周りに蜜を含んでいるといわれ、アリが巣に運ぶためカタクリの球根は地中深くにあると聞いたことがあります。時間のある人は観察してみて下さい。

ウスバサイシン

花が地面に接して咲く、めずらしい花。葉や草の陰になり、花も茶色系なので注意して探してみてください。

シラネアオイ

高山系の花で、大般若塚から三国峠にかけて道ばたの斜面で見ることができます。近年見かけることが少なくなってきました。

ショウジョウバカマ

湿った山地の斜面などに見られる早春の花で、周りの草花が芽吹く前に咲くので目立ちます。大般若塚から三国峠にかけていたるところで見られます。

マンサク

木の花で早春を感じさせる花です。雑木林や道ばたで時々見られます。遠くに見えるのは残雪です。

赤谷の森でわかったこと

「赤谷の森のコウモリ」

コウモリの会事務局
三笠 暁子

私たちは、赤谷の森にすむコウモリを調べるために、2008年から月に1回ほどみなかみ町を訪れ、町の皆さんにお世話になっています。特に猿ケ京温泉の民宿はしばさんには家族のように温かいおつきあいをしていただいています。

コウモリ調査のきっかけ

私たちコウモリの会が赤谷の森でコウモリを調べるきっかけとなったのは、自然保護協会の出島誠一さんと藤田卓さんにお声をかけていただいたからです。ご存知のように赤谷の森では自然環境の復元の試みが行われていますが、その試みが野生動物にどのような影響を及ぼすのかを知るためには、モニタリングをしながら進めていく必要があります。その対象としてコウモリがとてもいい指標になると考えられます。

でも当初は、モニタリングの対象にできるほど生息の状況がわかっていませんでした。どんな種類のコウモリが赤谷の森にすんでいるのかという基礎的な調査も、まったくなされていない状況だったのです。そこで今後、何を調べ、モニタリングするためにはどうすればいいのかを皆で考えました。

まず、生息している種類を調べる

日本には35種ものコウモリが生息しています。それらは沖縄と小笠原にいるオオコウモリの仲間2種をのぞいて、すべてが昆虫を食べますが、種ごとに食べる昆虫の種類が異なり、飛ぶ高さも異なります。ですから、コウモリの利用状況を調べるには、まずどんな種類のコウモリがすんでいるのかを調べる必要があります。

コウモリは、鳥のように双眼鏡で姿を見たり鳴き声を聞いたりして種類がわかるわけではありません。具体的には、夜、コウモリが

写真1　赤谷の森にすむキクガシラコウモリ
（腕につけているのは標識用のバンド）
撮影：大沢夕志

写真2　赤谷の森にすむヒメホオヒゲコウモリ
撮影：大沢夕志

写真3　赤谷の森にすむコテングコウモリ
撮影：大沢夕志

写真4　赤谷の森にすむウサギコウモリ
撮影：水野昌彦

飛ぶ時間帯に通りそうな場所に網やトラップをかけて待ちます（トラップはコウモリを傷つけないように配慮されています）。しかし、コウモリは暗闇でも超音波を発して物を認識できるので、捕まえるのは容易ではありません。一晩まったく捕まらない日もよくあります。調べるには国と県に捕獲許可の申請を出し、捕獲をする必要があります。

これまでに確認したのは11種

これまで赤谷の森で確認できたコウモリは11種になりました（詳細は群馬県立自然史博物館の研究報告に掲載予定です）。捕獲したコウモリは計測し、標識バンドをつけた後、音声を録音して放します。音声の録音は、今後、捕まえなくとも音声を録音するだけで種がわかるようにするために集めています。

これまでに２００頭以上のデータがとれ、音声だけで種がほぼ判別できる種と、サンプル数が足りない種があります。今後、音声データを充実させることで、11種のコウモリが赤谷の森をどのように利用しているのかについて、音声でモニタリングしていきたいと考えています。

サポーター活動の紹介

南ヶ谷湿地

赤谷に小さな湿地があります。湧水に潤されたこの湿地を訪ねると、たくさんの生きものたちの息づかいが伝わってきます。

南ヶ谷湿地の自然を記録し始めて数年が経ちます。泥炭層を持つこの湿地では、ヒキガエルやクロサンショウウオ・モリアオガエルが産卵し、ホタルが乱舞し、トンボが飛び交い、湿地を好む植物たちが育ち花を開いていました。繊細な自然にふれ、毎月の観察にワクワクする日々でした。

クロサンショウウオの子ども

専門知識が必要なため専門家や地元の方々のご協力をいただき、両生類・水生昆虫・珪藻といった小さな生きものたち・植物・水質を調べ、写真記録し、さらに地形図づくり・泥炭層調査など行いました。しかしまだわからないことだらけ。生きものもまだまだ見つかるのでは、と思っています。

しかし湿地は、開けた水面が50～60年前の何分の一かに減少し消滅の危機にあります。湿地をたよりにいのちをつないできた生きものたちがいつまでも生き続けることができるよう、願わずにおれません。サポーターの活動がその一助になれたらと思うところです。

（竹村秀雄・和田晴美・前田修）

国連子供環境ポスター原画コンテスト御一行の来訪

長年AKAYAプロジェクトを支援していただいている㈱ニコンは、国連環境計画（UNEP）、地球環境平和財団、バイエルAGと、毎年「国連子供環境ポスター原画コンテスト」を共催しています。

コンテストは毎年、地球環境保全についてのテーマを設定し、全世界から作品を募集して行われます。21回目となる今年は、最終選考会が東京で開催されたため、選考会翌日に日本の森と生物多様性を実感できる場所として、赤谷の森を訪問されました。

上毛高原駅からバスで移動し、赤谷湖から赤谷の森の残雪と新緑の風景を楽しんだ後、いきものの村で、日本の森にくらす生きものたちとAKAYAプロジェクトの取り組みをご紹介させていただきました。その後、法師温泉で温泉と食事を満喫して東京に戻られました。

ほんの数時間の滞在でしたが、海外から来られた方も、日本の森の豊かな恵みを赤谷の森で実感し、十分楽しんでいただけたようです。これからも、日本の生物多様性を実感できる場所として、多くの方に訪問していただきたいと思います。

㈶日本自然保護協会　プロジェクト担当　出島　誠一

赤谷湖の前で記念撮影

新メンバー紹介（平成24年4月）

よろしくお願いします。

関東森林管理局
計画部長
池田（いけだ） 直哉（なおや）

埼玉県出身。中学、高校では野球部で白球を追うかたわら、遠くに見える秩父連山に憧れ続け、その反動で大学では毎年100日以上を山や高原で過ごしていました。

林野庁では生物多様性の検討会や森林・林業再生プランのとりまとめ等に携わっていましたが、これから皆さんと実際のフィールドで活動できることを楽しみにしています。

計画課
森林施業調整官
入澤（いりさわ） 和彦（かずひこ）

私は群馬県渋川市の出身で、入庁してからもう三十数年となってしまいました。前任の利根沼田森林管理署では、「赤谷プロジェクト」との関係で大変お世話になりました。

この度、引き続き「赤谷プロジェクト」に携わることとなり、関係者の皆様といっしょに、よりよい赤谷の森林づくりができるよう努力したいと思いますので、引き続きよろしくお願いします。

赤谷森林環境保全
ふれあいセンター
自然再生指導官
石坂（いしざか） 忠（ただし）

4月から再び赤谷センターに参りました。

赤谷プロジェクト発足当時はわからないことが多く、何でも覚えようとしていました。

まだまだ覚えることは沢山ありますが、初心を忘れず新たな気持ちでいきますのでよろしくお願いします。

赤谷森林環境保全
ふれあいセンター
自然再生指導官
栗田（くりた） 喜則（よしのり）

秋田県出身。森林環境教育やイベントなどの企画立案が得意です。赤谷プロジェクトでは、得意分野を活かして、地域との架け橋になれるよう頑張ります。また、HPを活用して楽しい情報をたくさん発信させますので、よろしくお願い致します。

(財)日本自然保護協会
保護プロジェクト部
部長
志村（しむら） 智子（ともこ）

白神山地のブナ林の保護活動アシスタントが職員としての始まりでした。その後、会報編集、環境教育、総務部を経て、春から現部署に異動してきました。現場で皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

2月～5月　赤谷プロジェクト 活動日誌

活動日	活動内容	活動場所
2月 9日	自然環境モニタリング会議	日本自然保護協会
2月13日	茂倉沢治山検討委員会	さいたま市
2月19日	赤谷の森自然散策	いきもの村ほか
2月21日	グリーンコリア視察	いきもの村ほか
3月23日	企画運営会議	利根沼田広域観光センター
4月21日	旧三国街道マップ作り会合	まんてん星の湯
5月26日	放送大学面接授業	沼田市図書館
5月27日	赤谷の森自然散策	小出俣林道ほか
5月28日	旧三国街道マップづくり現地学習会	旧三国街道ほか

○各ワーキンググループ会議
渓流環境復元：3月1日、猛禽類：3月3日、環境教育：4月20日

○赤谷プロジェクト地域協議会会合
2月2日（定期会合＆監査会）、2月19日（総会）、4月5日（定期会合）

○赤谷の日（いきもの村ほか）
2月11～12日、3月10～11日、4月7～8日、5月12～13日、

○猛禽類調査（赤谷の森全域）
2月2・4・8・13・16・17・20・25・26日
3月1・7・13・14・19・22・27・31日
4月1・5・8・10・15・16・21・24・28・29・30日
5月4・19・20日

○ホンドテンモニタリング調査（赤谷の森全域）
2月4・11日、3月11日、4月7・8・12日、5月12・23・24日

赤谷プロジェクトの活動

赤谷の森自然散策

錦秋の「赤谷の森」を散策しませんか！

【実施日】10月28日（日）
【集合場所・時間】関東森林管理局（前橋市）9時出発→利根沼田森林管理署（沼田市）9時50分出発→終了時間15時30分（現地）
【募集対象】小学4年生以上（小中学生は保護者同伴）
【参加費】無料　先着20名
【服装など】自然散策ができる服装（長袖、帽子、長靴）、雨具、飲み物
【申し込み先】
赤谷森林環境保全ふれあいセンター
TEL0278（60）1272
【募集締切】10月22日（月）

赤谷プロジェクトに望むこと

赤谷プロジェクト地域協議会
河合　進

今年は4月20日頃だったか、赤谷湖（相俣）ダムの放流が始まり、水音が我が家にも清々しく聞こえてきています。

ダムができる以前は毎日この流れの音に馴れ親しんで、生活の営みの一部でありました。年に一度の雪解け水の流れは、いやに大きな水音に聞こえていました。ダム放流は格別で、昔の懐かしい川での思い出もいっしょに連れてきてくれます。

水はやっぱり青い水が波音を立てて流れるのがいちばんです。年何回かある天候不順の雨による放流水は濁り、そして独特の土と木の臭いが漂う、そんな水は御免です。

この上流部に「赤谷プロジェクト」事業が展開しています。そういえば平成24年2月26日付け読売新聞『「赤谷プロジェクト」登場　群馬大』との見出しの記事が目に飛び込んで来ました。群大の医学部で、みなかみ町における自然林復元の論文問題が出されたとの報道であります。

群大の医学部は国立大では最難関の医学部だそうですが、そこでの出題とはいかに「赤谷プロジェクト」が識者の間では高く評価されているか、時代を先取りしての環境問題についての知識や考え方が問われたものでした。我々地域協議会の一員は、改めてこの事業の重要性を広く一般に周知しなくてはならないと痛感した次第であります。

観光受け入れ地であるみなかみ町は、「赤谷の森」と呼ばれる一帯で自然体験学習を通して植物と生きものの関わりを勉強する活動を受け入れ、オーライニッポンとしての農村と都会の交流の場としていければと考えております。

赤谷プロジェクト、って？

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者がともに活動するという、全国的にもめずらしい取り組みです。

活動地域は、旧新治村三国山脈に広がる、約1万ha（10km四方）の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから、「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生きものの調査・研究、環境教育、研修の受け入れなど、活動はさまざま。毎月第一土・日曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。また地域協議会では、子ども向けの「ムタコの日」なども開催しています。

どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

本誌や赤谷プロジェクトに関してのお問い合わせ先は、こちらへどうぞ！

赤谷プロジェクト地域協議会
代表幹事　林　泉
TEL.0278-66-0888
事務局長　安田　剛士
TEL.0278-22-2119
http://blog.livedoor.jp/mutakosawa/

(財)日本自然保護協会
プロジェクト担当　出島　誠一
TEL.03-3553-4107
http://www.nacsj.or.jp/akaya/index.html
メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局
赤谷森林環境保全ふれあいセンター
所長　廣橋　潤
TEL.0278-60-1272
http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html
メールアドレス akaya_postmaster@rinya.maff.go.jp

この情報誌は、間伐材を使用した用紙で制作しています。